

東海・北陸



認知症啓発トイレトペーパー
＝日本福祉大提供

誰もが日常的に使うトイレトペーパーを通じ認知症について知ってもらいたい。そんな願いを込めたユニークな「認知症啓発トイレトペーパー」を日本福祉大学社会福祉学部が考案、制作した。9月の認知症月間、同21日の世界アルツハ

イマーデに合わせ、愛知県知多半島の5市5町や名古屋、中部国際空港に寄贈しようとして、インターネットを活用して幅広く資金を募るクラウドファンディング(CF)を6日から開始した。

CFは8月末まで実施。目

トイレットペーパーを考案、制作した。昨年度のゼミ生たちが「もっと自然に認知症について知ってもらう方法はないか」を考え、トイレトペーパーに着目。完成させた認知症啓発トイレトペーパーには認知

日本福祉大

認知症の知識広めたい

学生が啓発トイレトペーパー制作

CFで資金募り寄贈目指す

症の基礎知識に加え、相談先や認知症のある人との接

標金額は120万円で、トイレトペーパーの制作や発送などにかかる経費に充てる。

し方などをあしらった。考案、制作に当たった同大3年の斎藤和花さんは「トイレトペーパーは誰もが毎日使うもの。自然に認知症について知ってもらえる、同3年の勝見心咲さんは「相談先など知っておくと安心できる情報を届けたい」と期待を込めた。

同学部の齊藤雅茂教授(社会福祉学)が担当する2年生ゼミでは、認知症の当事者や家族、地域の人たちが暮らしやすい街づくりを目指す「認知症啓発プロジェクト」を展開。この一環で学生がトイレ

た。(市川傑)